

第 65 回 湘南科学史懇話会（2013 年 11 月 16 日（土）午後 2 時 00 分～6 時 00 分）

『天工開物』の書誌学的研究—三枝博音氏の研究継承の試み—

講師：渡部 武さん（中国文化史、東海大学名誉教授）

講演概要

『天工開物』は 17 世紀初頭に宋応星（1587-1666?）によって著わされた産業技術書で、宋応星は明王朝と清王朝とが交替する激動期に生きた知識人である。従来、彼についての伝記史料はほとんど知られておらず、その主要著作である『天工開物』でさえ、本国の中国では忘却されていた。ところが、わが国では 17 世紀末には中国から将来され、明和八年（1771）に大坂で翻刻されることによって、以後大いに流行した。その内容は農業、養蚕、製塩、製糖、製陶、製紙、鋳物の製錬から兵器の製造にいたるまで、挿図を付して詳細に解説している。本書に対して科学史的な研究のメスを入れたのは、三枝博音氏（1892-1963）であった。三枝氏は、本書の科学史的な価値を世界の科技史の中で最初に位置づけたばかりでなく、周到な書誌学的な研究も行なっている。しかし、1960 年代初頭に宋応星に関する新たな史料が発見されるに至るや、その著者の実像がより明らかになっていった。今回の報告では、三枝博音氏が踏み込めなかった『天工開物』の書誌学的問題、及びその著者宋応星についての人物像を紹介してみたい。

講師のプロフィール

渡部 武（わたべ たけし）：1943 年、東京都大田区の京浜工業地帯の一角に生まれる。生家は代だい木造建築請負業を営む。早稲田大学文学部および同大学院で中国古代史を学び、その傍ら民俗学者宮本常一氏のもとで民俗調査の方法論を学ぶ。とくに絵巻物の研究方法を応用して、中国古代の画像石・画像磚に描かれた生活風俗の分析を行い、また 1990 年代以降ほぼ 10 年間にわたって西南中国諸民族の生産工具の調査に従事し、多くの農具の実測記録を残す。高等学校教諭を 7 年間勤めた後に東海大学文学部歴史学科に転勤し、主として中国文化史を担当する。主な著作（編著・翻訳も含む）として以下のものがある。『四民月令—漢代の歳時と農事—』（平凡社の東洋文庫、1987 年）、『画像が語る中国の古代』（平凡社、1991 年）、『雲南の生活と技術』（慶友社、1994 年）、『雲南少数民族伝統生産工具図録』（同、1996 年）、『四川の考古と民俗』（同、1999 年）、『西南中国伝統生産工具図録』（同、2000 年）、『四川の伝統文化と生活技術』（同、2003 年）、『中国農書が語る 2100 年』（石声漢著の訳、1984 年）、『中国大豆栽培史』（郭文韜著の訳、1998 年、本書の訳でアジア環太平洋翻訳出版部門佳作賞を受ける）、『中国漢代の画像と画像墓』（羅二虎著の訳、2002 年）。中国科学院自然科学史研究所理事、フランス社会科学高等研究院客員教授、中国農業博物館研究所外部研究員などを歴任。現在、東海大学名誉教授、博物史協会（本部はロンドン）の日本支部代表、湘南を記録する会代表。

日時：2013年11月16日（土）午後2時～6時

会場：藤沢市労働会館3階 第3会議室 〒251-0053 藤沢市本町1-12-17
電話 046-26-7811 小田急線「藤沢本町駅」徒歩10分、JR「藤沢駅」北
口徒歩15分 <http://www.fujisawa-rodo.jp/access.html>

参加費：1,000円

連絡先：猪野修治（湘南科学史懇話会・代表） 〒242-0023 大和市渋谷3-4-1

TEL/FAX 046-269-8210 email shujiino@js6.so-net.ne.jp

湘南科学史懇話会 <http://www008.upp.so-net.ne.jp/shonan/home.htm>